

朝鮮学校コミュニティにおける話し言葉での非縮約形の多用に関する考察

權恩熙・宇都木昭

名古屋大学大学院人文学研究科博士課程・准教授

在日コリアン・オールドカマーの言語事情については、日本語への言語シフトが完了したと見る見解が大多数である。しかし、朝鮮学校を中心に形成されたコミュニティ(以下、朝鮮学校コミュニティ)の場合は事情が異なる。朝鮮学校では幼稚園から小・中・高、大学まで一貫した民族教育が行われており、それを通して朝鮮語の継承および保持に成功しているのである。さらに、そこで話されている朝鮮語はいろいろな面で本国とは違う独特の特徴を多く持つものとなっている。しかし、その実態についてはあまり明らかになっておらず、断片的な印象論にとどまっているものが多い。そこで、本発表では朝鮮学校中級部と高級部の授業7個を録音したものと朝鮮学校を扱っているドキュメンタリー7点を用い、「在日朝鮮語」を特徴づけるもののひとつと考えられる「話し言葉での非縮約形の多用」現象について実証的に概観考察したい。

노대규(1996)などによれば、朝鮮語の口語の大きな特徴として縮約形(준말)が頻繁に使用されることをあげられる。しかし、本発表における言語資料を見る限り、朝鮮学校コミュニティではそういった朝鮮語の口語の特徴はあまり見られない。友達同士の雑談のようなカジュアルな場面においても、縮約形と非縮約形(본말)の対立のある言葉に関しては、縮約形が使用されることはほとんどなく、「非縮約形」が多用されていた。ただ、「맞춰(맞추어)」や「봤어(보았어)」などのように「用言の語幹+語尾」の構造においては比較的縮約形も多く使用される。目立つのは、「이건(이것은)」 「나의(내)」 「뭔가(무엇인가)」のように、「体言+助詞」の構造においては非縮約形が非常に高い出現率を見せているということである(例1～例3参照)。

- (1) 이것은 센스가問われるから. 잘하지? [教員(男)→高級部生徒(女)/雑談/教室]
- (2) 나의 경우는 친척이 있었기 때문에. [高級部生徒(男)→監督(男)/インタビュー/部屋]
- (3) 리사, 무엇인가 말하라. [高級部生徒(女)→高級部生徒(女)/雑談/教室]

このことは韓国と朝鮮民主主義人民共和国の標準語や地域方言、朝鮮族の朝鮮語においても見られない現象で、非常に注目に値する。縮約語に関する知識の少ない初級レベルの朝鮮語学習者ではしばしば見られる現象であるが、朝鮮学校では日本語を除くすべての科目の授業が朝鮮語で行われるほどレベルの高いバイリンガルであるうえ、生徒のみならず教員の使用も確認されているため、一過性の間違いやエラーとしてみることは適切ではなく、もはやこのような「非縮約語の使用」が在日朝鮮語を特徴づける、キーとなる特徴として定着しているとおおむね認められよう。そしてこのような現象の背景には、イリーナ・キム(1994)や植田(2009)、임영철·권은희(2012)などで指摘されている「文語体の口語化」現象が窺える。